

## 第8回 仙台市総合計画審議会議事録

日 時	平成22年12月27日（月） 16：00～18：00
会 場	仙台市役所 2階 第一委員会室
出席委員	足立千佳子委員、阿部一彦委員、石川建治委員、内田幸雄委員、江成敬次郎委員、大草芳江委員、大滝精一委員、大村虔一委員、岡本あき子委員、菊地昭一委員、小松洋吉委員、鈴木由美委員、高野秀策委員、西大立目祥子委員、西澤啓文委員、庭野賀津子委員、針生英一委員、樋口稔夫委員、増田聡委員、間庭洋委員、水野紀子委員、宮原育子委員、〔22名〕
欠席委員	阿部初子委員、小野田泰明委員、佐竹久美子委員、菅井邦明委員、鈴木勇治委員、永井幸夫委員、柳生聡子委員、柳井雅也委員〔8名〕
事務局	山内企画調整局長、大槻企画調整局次長、白川総合政策部参事、梅内総合計画課長、遠藤総合計画課主幹、柳津総合計画課主幹、堀田青葉区役所区民部長、吉岡宮城野区役所区民部参事、小野若林区役所副区長、谷口太白区役所副区長、青柳泉区役所区民部長
議 事	1 開会 2 議事 (1) 仙台市基本構想・基本計画（答申）素案について (2) その他 3 閉会
配付資料	1 仙台市基本構想・基本計画（答申）素案 2 答申素案と中間案・修正概要案との比較表 3 市民意見の分類と対応

### 1 開会

大村虔一会長

定刻になりましたので、ただいまから第8回仙台市総合計画審議会を開催いたします。

最初に、本日の議事録署名委員ですが、前回大草委員にお願いいたしましたので、五十音順で次になる、大滝委員にお願いしたいと思います。

大滝精一委員

はい。

大村虔一会長

どうぞよろしくお願いいたします。

続いて議事に入る前に定足数の確認を行います。事務局から報告をお願いします。

梅内総合計画課長

それでは定足数を報告いたします。本日は22名のご出席を予定しておりますが、現在17名のご出席という事でございます。定足数を満たしている事をご報告いたします。

続きまして資料の確認をさせていただきます。

お座席に、座席表、新総合計画策定作業マップ、本日の次第、そして資料一覧、資料1から3、前回まで事務局でお預かりしている資料と議事録をつづったファイルを置かせていただいております。また、事前にお送りしておりました資料は暫定版でございますので、本日の資料一式とお持ち帰り分を後ほど席に置かせていただきますので、お持ち帰りいただければと存じます。資料に過不足ございませんでしょうか。事務局からは以上でございます。

大村虔一会長

資料の過不足はございませんか。

## 2 議事

### (1) 仙台市基本構想・基本計画（答申）素案について

大村虔一会長

それでは、議事に入りたいと思います。本日の議事は二つです。

まず、仙台市基本構想・基本計画（答申）素案についてでございます。

前は、分野別計画等骨子だけの部分も含めた案の議論を行いました。今回は最終答申と同じ記述レベルでの案が出されております。始めに事務局から説明を受けて、その後に皆さんで意見交換を行いたいと思います。

それでは事務局お願いいたします。

梅内総合計画課長

それではご説明を申し上げます。

本日はこれまでご意見をいただいていた部分、市民の皆様からいただいていた部分ですとか審議会での議論、そして審議会での質疑等に基づいた答申素案として全容を示しております資料1と資料2を用意してございます。

まず、資料1でございますが、答申素案の全文になっておりますが、膨大でございますので説明の関係で、107ページ、108ページをご覧いただければと思います。

こちらに修正案及び修正概要案からの修正方向を示しております。これまで、11月24日の第7回審議会におきまして、基本構想及び基本計画の総論、第2章の重点的な取り組み、第5章の総合計画の推進についての部分で修正概要という事で示し、これをご議論いただいたところでございます。

また、分野別計画及び区別計画につきましては、策定作業が途中でございましたので修正概要に入れておりませんでした関係で、中間案から今回初めて素案という形で示す事になります。こちらにつきましても、中間案に対しますパブリックコメント等の市民からの意見、審議会における議論、ご提言に加え、各部局で現在多くの計画策定作業を行っております。こちらの主なものがかなり進んでまいりましたので、こちらも含めま

して記載の充実を図ったところでございます。この内容を新旧でまとめたものが、細かくて恐縮ですが、資料２の新旧対照表という形で変わった部分を示しているところでございます。

主な変更点といたしましては、修正概要で示しました。基本構想及び重点等の区分につきましては、修正概要からご意見があった部分の修正という事になります。また、分野別計画と区別計画につきましては、中間案からの変更というところで、特に分野別計画で大きな変更、内容の充実を図ったところでございます。

基本構想につきましては、文言の修正を行った部分が一部ございます。

また、新旧対照表の１ページの〔旧〕のところで下の部分にゴシックで示しております「市民力を育み広げ多面的に生かす協働のまち・仙台」といった部分を入れておりましたが、こちらにつきましては、その前後の文章にも同様の部分があり、この部分についての位置付けについてご意見があるため修正をいたしました。

また、仙台の都市像の部分で、新旧対照表２ページの下の子育てに関するところでございます。〔旧〕のところでは「子どもたちの成長を応援し、互いに支え合い、安心して年を重ねることができるまち」というライフプラン全体の姿を一つの項目として起こしたところですが、これにつきまして子供で一つの項目をつくるべきではないかという意見があり、これについて一つにまとめました。この関係で、従来入っていたものを前後の表記のところに移し変え、その部分を下線で示しております。

また、都市像では「自然と調和し持続可能な潤いの都」の部分でございますが、前回、仙台の歴史文化や文化風土というものを重視すべきであるというご意見をいただきましたので、ここでも一つ文化風土を取り上げておりますし、重点分野や分野別計画のところでもそういった趣旨を採用させていただいております。

また、活力の都の部分でも、アジアを始めとする世界との交流を重視すべきであるという意見がありましたので、この部分を都市像に一部反映させております。また、同様に重点分野等でも反映を図っているところであります。

都市経営の部分で「創造的・機動的な職員育成と組織風土づくり」を足してございます。事前の記載が財政健全化というところに集中しておりまして、議会の議論でも同様に職員の意識改革が重要だというご意見がございましたので、これを踏まえて加筆したものでございます。

基本構想につきましては、以上のような変更を加えたところでございます。

次に基本計画の部分でございます。新旧対照表の４ページ以下でございます。時代環境と課題認識の部分で、こちらにつきましては構造改革とか社会構造改革というような用語の統一につきまして前回審議会でご意見がございましたので、そういった部分の修正をしております。また、同様に文章の流れについてご指摘があった部分についても修正を加えてございます。

「重視すべき視点」のところも議会で議論があったところですが、の「支え合いの重視」の部分で、昨今の無縁社会など孤立化が大きな課題となっていますので、そういった議論も踏まえまして記載を修正いたしました。

また、の環境の部分におきましても、環境を重視すべきとの市民からのご意見が多

かったのと、前回環境とか自然の用語が統一感がないのではないかという審議会でのご意見ございましたので修正を加えてございます。その他、何箇所か修正を行っております。

新旧対照表に記載しております人口のところは今回＊印を付けてあります。今年度は10月に行いました国勢調査の関係で公示が年明けに出る予定をしております、これが出た段階で人口推計を再度行いたいと思っております。その関係で中間案に示しました人口につきましては、国勢調査結果を踏まえた再推計によりまして文言や表記を最新の審議会に向けて訂正を加えていく予定であります。この点ご了承いただければと存じます。

次に、「重点的な取り組み」でございます。

新旧対照表6ページ、7ページのミュージアム都市であります。

前回の審議会でもミュージアム都市の内容をもう少し明確化すべきではないかといったご意見がございましたことから、内容の検討を加えまして、基本的な構成等をいじらないように、内容を明確化する項目を増やしてございます。

(2) 学都についても、学都の持つ多面的な価値を産業等をいろいろな部分で活用すべきだという審議会のご意見がございましたので、この部分に加筆させていただいております。

(3) の子供の教育についても、この部分の充実を図るべきとのご意見に対応し、項目を一つ起こしたものでございます。

次に地域で支え合う社会づくりであります。他の部分も同様ですが、項目のすぐ下のリード文につきまして、若干前回の案でボリューム等のばらつきがありましたので、こちらを整理する形でスッキリさせました。その部分は下のまちづくりの方に項目を移すという作業を行っております。

新旧対照表の8ページでございますが、「共生・健康社会づくり」は議会でも男女共同参画の審議がございましたので、それを反映させた部分がございます。また、全体の構成につきまして、ご指摘を受けて修正した部分がございます。

「子育て応援社会づくり」につきましては、待機児童ゼロの施策について組み直した部分、児童虐待についてご意見がございましたので、その部分を反映させた部分がございます。また、障害児保育等の多様な保育サービスについても審議会でご意見ございましたので、これについて反映を図ってございます。

新旧対照表9ページの自然と調和した都市づくりについてでございますが、前回の修正案では「低炭素都市づくりの推進」という形で示しておりましたが、環境プラン等の審議で資源循環型の都市についても非常に重いウェイトになっていることから、こちらを採用いたしまして項目を増やしてございます。

機能集約型都市の部分につきましても、議会での議論を踏まえて修正した部分がございます。また、のところで、工業・流通・研究区域について言及すべきだとのこと指摘があり、その部分を加筆してございます。

新旧対照表の11ページ、12ページの魅力と活力づくりの部分でございますが、11ページの(1) につきまして、商店街の皆様と業者の連携という中心商店街等のビジョ

ンが最近できあがりしましたので、この部分を反映させて項目を一つ起こしております。

また、 の農業活性化につきましても、審議会での議論を踏まえて修正をした部分があります。

次に、12 ページからの経営方針の部分でございますが、市民協働、市民力が今回の基本構想からの最大のテーマでございます。この部分につきまして修正を図ったものでございます。ここにつきましては、これまでのご意見があった内容を踏まえ、構成等一部見直した部分がございます。市民参画という形で 12 ページの最後の部分の表記を直してございます。

13 ページの「市民力の充実・拡大に向けた取り組みの推進」でございますが、この部分でもご意見を踏まえまして、構成を見直しております。大きな内容の修正という形ではございませんけれども、一つの項目でダブっているような記載が見受けられましたので、その部分の整理をしたところでございます。また、 の大学の魅力づくり等についてご意見がございましたので、この部分の反映を図ったものでございます。

新旧対照表 15 ページの地域づくりについては、区役所の事後評価が大きな課題であると審議会でも議論がございましたので、地域協働拠点という区役所の新しい位置付けを明確にいたしまして、それについて修正を図ったものでございます。項目につきましても、本庁との連携等議会でご指摘があった部分について解説をしているものでございます。

都市経営の部分につきましては、内部での指摘があった部分の修正をしてございます。

新旧対照表 17 ページで、今回新たに情報通信技術を生かしたサービスの向上という項目を加えました。これにつきましては、審議会でのご意見があった部分で、情報通信技術を活用する事によって、これまでよりもいろいろな窓口を広げると利便性を上げる事ができるのではないかとというご意見を踏まえたものであります。あるいは審議会、昨今国で様々な問題が起きていますけれども、情報セキュリティについてご指摘がありましたので、その部分を合わせまして一つ項目として起こした部分でございます。

公共施設のマネジメント関係では、軸の修正を行っております。

18 ページからの分野別計画につきましては、資料 1 の 108 ページのところでお示ししておりますけれども、都市像との関連を明らかにするため、全体の構成を中間案から大きく再編してございます。また、今までいただきました対話や市民意見、あるいは審議会における議論、提言を反映した事、あるいは、個別計画の進捗などを踏まえまして項目の内容を更に充実させました。中間案は全体で 208 の基本施策を載せていましたが、各計画等の反映を図りまして、これを 319 と 5 割程度項目を増やしてございます。その関係で構成の見直しと合わせまして大幅な見直しとなっております。

最初の「学びや楽しみを多様な創造につなげる都市づくり」でございますが、様々なご提言あるいは教育振興基本計画などの進捗を踏まえまして、ミュージアム都市政策の具体化、拠点の充実やシンボルゾーンの形成推進、情報発信など、また、歴史文化の重視、大学の魅力づくりや資源活用、若者の参画、家庭・地域・学校の連携の推進、子供の体験機会の充実、読書の推進などについての内容を大幅に充実させてございます。

続きまして 23 ページ以下、「健康で安全に安心して暮らすことができるまちづくり」

でございますが、こちらにつきましても、各種のご提言、あるいはいきいき市民健康プラン、食育推進計画、消費生活基本計画などの進捗を踏まえまして、歯・口の健康づくりでございますとか、食育の推進、都市構造におきましても安全性を向上させるべきだとかのご意見、あるいは地域の防災力向上、安全対策の充実、消費生活の安全確保といった多方面につきまして、内容を充実させてございます。

27 ページからの「共に生き自立できる社会づくり」でございますが、こちらにつきましても、地域保健福祉計画など進捗を踏まえまして、地域保健あるいは地域保健福祉活動の促進、地域におけます男女共同参画の推進、外国人の安全の確保、障害児童保育の充実、児童虐待への対応、保育サービスの充実、地域における子育て支援、介護予防サービスの充実、保健福祉サービスの充実、地域における福祉の充実、障害者同士の支え合い活動の推進など、多方面にわたりまして、見直しを行いました。

また、新旧対照表の 32 ページ、33 ページをご覧ください。右側が中間案にございました「協働による地域づくり」という部分でございますが、こちらにつきましても、重点政策の都市経営の市民力と地域政策とだぶる記載がございましたので、そちらに整理をいたしまして項目自体をなくしております。内容につきましても、重点政策で全て網羅しているところであります。

続きまして、33 ページから「潤いの都・活力の都の実現をめざす分野」の「1 自然と調和し持続可能な環境都市づくり」でございます。こちらにつきましても、環境基本計画、緑の基本計画の進捗を踏まえまして、低炭素づくりを進める制度整備、あるいは再生可能エネルギーの利用促進、資源循環都市づくりの推進、緑のまちづくり推進といった部分で内容の充実を図ってございます。

36 ページから「魅力的で暮らしやすい都市づくり」でございます。こちらにつきましても、市民意見等多かった部分でございます。また、都市計画マスタープラン、都市交通プランなどの進捗を踏まえまして、都心機能の強化、あるいは拠点機能のあり方、都市軸の形成、郊外区域における生活環境の改善、農業集落の機能確保、自転車利用促進などについて多く意見がございまして、この部分の内容を充実させてございます。

39 ページから 40 ページにかけまして、活力づくりでございます。こちらにつきましても、ご意見の多かったシティセールスの推進、あるいは東北や仙台都市圏といった広域的な誘客促進、あるいはアジアを始めとします国際経済交流の促進、東北との連携促進、中小企業の技術力向上、情報通信技術活用、中心部商店街の魅力づくり、また、農業関連などにつきまして、内容を充実させているところでございます。

このような、各分野におきまして内容の充実を図ったものが分野別計画となります。

次に区別計画でございます。区別計画につきましても、中間案の段階から、区民意見交換会等で各区の表記で微妙な違い等につきましてご指摘がございましたので、43 ページ下の区別計画総論で構成を示してございますけれども、そこで、記載について統一すべく、区の特性と動向、区の将来ビジョン、市民協働のまちづくり、こういった点につきまして、各区の共通項目として掲げるようにいたしました。これに従いまして各区の計画を構成したところでございます。

各区のそれぞれの内容につきましても、区別意見交換会等におきまして、各区の要望

等ございましたことから、それへの反映として修正をしてございます。修正点につきましては、下線を引いて示してございます。

以上が区別計画でございます。

最後でございますけれども、資料 1 の 105 ページ、106 ページをご覧ください。「総合計画の推進」というところでございます。推進につきましては、左のページで第 7 回の審議会の中でご説明させていただいた内容を基本的に載せております。その内容につきまして、現在の検討状況を参考資料 1 として載せているものでございます。

基本計画の分野別計画におきまして、施策の体系ごとに基本目標を定める事といたしました。こちらにつきましては、例えば、27 ページをご覧くださいだと思います。

27 ページの上のところに、「学びや楽しみを多様な創造につなげる都市づくり」の基本目標を定めてございます。ここでは 3 つ、「仙台の個性であるまちの資源を生かし、学びの環境づくりを進め、市民や訪れた人が学びを楽しみ豊かな時間を過ごすことができる、まち全体が一つのミュージアムとなる『ミュージアム都市』を構築していきます。」、「これまで培われてきた知的資源を維持・発展させ、学びを新しい学都づくりに生かしていきます。」、「学生を中心とする若者の力を培い、若者の主体性や行動力を生かしたまちづくりを進めます。」、こういった基本目標を施策体系ごとに進めてございます。

106 ページに戻ります。こういった施策体系、16 の柱がございすけれども、この中に先程のような基本目標、定性的な目標を定めてございます。この下につくってまいります実施計画において、先程の柱に関連する数値的な指標を定めてまいります。各柱ごとに複数の指標の設定を予定してございます。全体調整中でございますけれども、現在つくっている例といたしまして、ごみ総量について計画の満了である平成 32 年までに 21 年比で 10 パーセント以上削減、市域での温室効果ガスの総排出量につきまして、平成 17 年比で 25 パーセント以上削減、認可保育所の定員数につきましては何年度までというような目標を設定し早期の待機解消を目指す、という形での指標の例示を今調整しているところでございます。

こういった二つの目標を組み合わせまして、目標を設定してまいりたいと思います。

推進といたしまして、2 のところでございますけれども、5 月、6 月に市民の評価やニーズを把握するため、各年度、総合計画推進のための市民意識調査を実施したいと考えております。また、総合計画進捗状況の集約整理といたしまして、各局区と調整しながら、施策の推進状況、指標の達成状況、総合計画推進のための意識調査の分析結果につきまして集約整理をしてまいります。これにつきまして 8 月に市民協働による評価点検をしたいと思います。

先程来の集約しました内容につきまして、報告書の案を作成した上、計画初年度におきましては、ご相談していなくて大変恐縮でございますが、現在私どもとしましては、策定に携わっていただきました現在の総合計画審議会の委員の皆様でご都合の許す方を中心としまして市民会議を立ち上げ、そこでもご意見をいただいた上、市民フォーラム等市民参画の取組と併せて実施いたしまして、その結果を踏まえ次年度以降の評価手法を検討していければと今のところ考えているところでございます。

市民フォーラム等につきましても、委員の皆様を中心としました会議と共同で、市民参画の取組としてまいりたいと考えております。これによりまして来年度基準というものをつくりまして、来年からの計画でございますので、再来年から実際の評価が始まってくるという事で、来年のこの取組によりまして、評価のスキームを確定させていきたいと考えております。

5番のところでございます。毎年9月、10月にかけて、仙台市議会におきまして決算の議会が開かれます。こちらの方に分かりやすい概要としてまとめた報告書を示し、また、ホームページや市政だよりにおきまして、市民の皆様にも結果をお知らせしたいと考えてございます。そして、これらの評価点検を行いまして、次年度の予算等への適切な反映を図る事により、総合計画の実効性の確保を図ってまいりたいと考えてございます。

内容につきましては以上でございます。

大村虔一会長

それでは、委員同士で意見交換を行ってまいりたいと思います。

事務局から資料1の答申素案と資料2の新旧対照表が提出されております。これまでの審議会のご意見から全体が見える段階にきたわけですが、皆様から最終案に向けてご意見をお出しいただければと思います。また、ご質問などございましたら、一緒にさせていただいて結構でございます。かなり分厚い資料なので、目が全部に及んでいないとは思いますが、お気づきの点からどんどん発言していただければと思います。

足立千佳子委員

資料1の3ページのところです。「低炭素型の都市システムを持ち、魅力的で暮らしやすい杜の都」の中で、「郊外の良い生活環境を維持しながら都心や拠点に」とあるのですが、郊外の住宅地もそのままできるだけ維持していきたいというスタンスで他のページでも書かれているのですが、私は今、住生活基本計画検討委員会に関わっており、そちらでは住み替えをしていこう、郊外の住宅地のご高齢の方たちを街の方に入れながら、若い人たちに郊外団地に住み替えていただくという素案をつくっています。今回は保健福祉関係は基本計画とこれと合わせた説明を聞いたのですけれども、住生活の方ともこれから調整があるのかどうかを伺いたいと思いました。

大村虔一会長

事務局の方でどうでしょうか。

梅内総合計画課長

ご指摘の点でございますが、確かに住生活基本計画という事で、私も審議に参加させていただきながら話をさせていただいておりましたが、この文で書かれた表記ですが、住み替えの促進というような都市整備局の検討分野につきましては58ページをご覧くださいいただければと思います。



機能集約型都市づくりというのが大きな柱でございますので、住環境基本計画の検討委員会でもそういった住み替えについていろいろ議論をしていただいております。その点では基本計画とその他の計画との齟齬はないかと思っております。ただ、区民意見交換会や審議会でも多くご指摘をいただくところですが、集約を図る一方で現在郊外区域で買物の関係や医療の関係、あるいは地域の足の確保の関係で様々な問題が発生している分野があるという事でございます。それについても、地域ごとに状況が違う事から、その地域の特性に合わせまして、その地域で暮らし続ける市民の皆様の生活環境の維持改善をどのように取り組んでいくかという事も一方で大きな課題でございますし、そのことについて 58 ページでも記載している内容でございますし、また、都市像でも、機能集約を図る一方でそういった地域についても可能な対策をしていくことを打ち出すべきだという意見を踏まえて、このような記載になっております。そういった意味では住生活基本計画で行っている住み替えの促進や各種の住環境政策は、当然機能集約に向けて推し進めるという事ですけれども、一方、地域課題のようなことにも、こういった形でいくのかという事で検討していきたいというような事で、その点では表記が分かりにくいかかもしれませんが、そのような課題に対応していく事が重要だという考えでこのように記載しております。

大村虔一会長

いかがでしょうか。

足立千佳子委員

分かりました。

大村虔一会長

他にいかがでしょうか。

鈴木由美委員

10ページのところで、 の「児童虐待の未然防止や早期発見に努め」とありますが、「子どもたちが事故や犯罪に巻き込まれないよう安全を見守り」と新しく書き直されているのですが、この後に「多様な体験・遊びの場づくりを推進する」となっておりますが、児童虐待の場合、多様な体験・遊び場づくりとなる前に基本的には社会生活に必要な環境の整備という部分が多分に関わってくると思いますので、ここの部分に社会性を身につけるための環境の整備であるとか、生活の基本を身につけるような支援というような形の書き込みをしていただきたいなと思っております。

大村虔一会長

他にございましょうか。

阿部一彦委員

49ページに「障害者同士が支え合う活動」と書かれている事は凄く良い事だと思うのですが、ここでセルフヘルプ活動やピアカウンセリングなど大事な事が指摘されているのですけれども、ただし、ピアカウンセリングの前に可能であればピアサポート。ピアカウンセリングとなると、凄く限局したところになります。そうなるを書いてあるからという事かもしれませんが、基本はピアサポートという事でありますので、その文言があると、当事者の人たちが様々な事で役割を持ちやすいのではないかと思います。

もう一点ですが、38ページの2行目ですけれども、「地域団体や学校などとの連携により防災意識を醸成しながら、女性や若者、高齢者などの対象者ごとに工夫して」と大事な事だと思いますが、他のところでは高齢者と障害者があり、障害の特性によって様々な工夫があると思いますので、ここも、「など」に含まれるかもしれませんが、障害者という言葉があると分かりやすいと思ひまして、この二点についてお話をさせていただきました。

大村虔一会長

ありがとうございます。

事務局で特に返事がなければご検討ください。

梅内総合計画課長

はい。

大村虔一会長

他にいかがでしょうか。

宮原育子副会長

63ページです。いろいろな東北各地との連携についての具体的な項目を立てていただいて大変良いと思っております。その中の一番下の丸なのですが、「東西都市軸における」と書いてありますけれども、これはどこをイメージして東西都市軸という形になっているのでしょうか。

大村虔一会長

いかがでございましょうか。

梅内総合計画課長

一つは、現在検討に入っております、仙台商業跡地にコンベンション規模の施設整備についてのあり方を検討する委員会がございます。また、その他、南北にあります都市軸に加えまして、今回この計画期間中に東西都市軸が完成してまいりますので、東北大学ですとか中央に近い東北学院大学を始め、複数の大学をつないでまいります。また、動物公園でありますとか、東部の海岸、あるいは田園地帯といったような仙台の魅力をつないでいくこととなります。また、業務流通ですと卸町あるいは印刷団地、工業団地

といったものや、中央部の商店街といったものを新たにつないでいく形になりますので、仙台駅を中心として遠くとの交流が図られ、また、そういった方々が東西の都市軸という仙台の都市機能の方にアクセスしやすくなるということがございますので、そういったことを念頭に、「東西都市軸における」ということをあえて強調して記載してまいります。

宮原育子副会長

分かりました。

今ご説明していただいたのは、どちらかといえば、仙台市内の機能ですね。私はこれを読んでいて、宮城、山形の横の都市軸と思ったので、もしそうであれば、言葉を変えるなら、ここでない場所できちとした方が良いと思います。それでむしろ、東北各地域という事で政策交流も進んでおりますので、できればそのような東北の横軸連携をしっかりとっていただけるとありがたいと思います。他の方の意見にもいくつか出ていたと思いますので、ご検討いただければと思います。

大村虔一会長

他にございますか。

大滝精一委員

63ページです。「世界につながる都市づくり」というものがあるのですが、前から少しお話していますように、特に大学の留学生のような人たちが、ここで学びだけではなくて、例えば事業を始めるとか、もっと交流するとか、留学してきた人たちがまちの活性化にいろんな意味で寄与するとか、還元されてくるということをもっと強く打ち出して良いのではないかと思います。外国人が暮らしやすいということは何箇所か読んでいると出てくるのですが、ここの辺りが一番良い。全体として都市の個性を伸ばす仙台の魅力づくりというところで、留学生を始めとする外から来た人たちが仙台そのものの活性化に寄与していくという、そういう意味での人づくりとか留学生そのものの在り様みたいな事をもう少しはっきりと出した方が良いと思います。この10年後には留学生の数は2倍の3,000人くらいの規模にもっていきとされ、それが実現できるかいろいろありますが、そういうこともありますので、もう少し打ち出した方が良いと思います。

それから、青葉山サイエンスパークというユニバーシティパークについてですが、そこに企業を誘致するという話があるのですが、これも企業だけではなくて、むしろ外から企業を引っ張ってくるという事がある程度意識して、今言ったように留学生のような若い外国人を生かしていくとか、むしろ海外から企業を引っ張ってくるような具体的な事を書いた方が良いのではないかと思います。

これはもちろん仙台市だけではなくて、大学の中でやらなければならない事がたくさんあるのですが、もう少し具体的な、アジアにつながるとか世界につながるという中身を書いていただくと良いと思います。

大村虔一会長

ありがとうございます。  
事務局ありますか。

梅内総合計画課長

分野別のご指摘でございます。最初の留学生につきましては43ページで、先程大滝委員からご指摘がありましたけれども、どこに入れれば良いか我々も悩ましいところがありますが、いろいろなところに散らばっている留学生を始めとする外国人の皆様に対する施策をお伝えしております。この中で最後の丸のところですが、留学生が多い学都という事でございますので、留学生と連携を高めたいということについて記載してございます。こういった方々の就職でありますとか企業誘致も非常に大きな課題と思っております。青葉山のサイエンスパーク始め、いろいろなところに記載しているところがあります。ご指摘の部分について、対応が可能かどうか、新たにすべきかどうかについても再度話したいと思います。分野別においても余り重複しないようにするため、どこに置くかという点は、非常に事務局としても関連部局と相談する際に大きな悩みでございまして、いろいろなところに散らばっている分野もありますということは事務局からの説明が足りなかった部分だと聞いておりました。

以上です。

大村虔一会長

その事に関してですけれども、やはり分野別にやるといろいろ分かれるので、余りバラバラそれぞれやったのでは意味がないので、各分野が協力してある一つの成果を上げる取組をする事をどこかで強く言っていただいて、分かれているが一つの取組として運用していけるものがあると良いですね。

増田聡委員

一点は今の事についてですが、紙の報告書で前後行ったり来たりするのは大変なのですけれども、もし余力がありましたら相互リンクを張っていただいて、留学生という言葉をクリックすると別の留学生のところに飛ぶとか、そこまでいなくても留学生という索引が後ろに付いているとか、少し都市マスとか住生活とかそれぞれの基本計画があるので、そのキーになる言葉には索引を付けて、ここで挙がっているものがそれぞれの個別計画でどのように関係しているのかとか、産業計画等どのようにつながっているのかとか、相互が見えるような試みをできればやっていただきたいと思います。

もう一点は人口予測のところ、今年度10月にやった国勢調査の結果が年明けに出るという事ですけれども、大きな変化はないとは思いますが、どういうところが変わりそうだとか、もっとこれが進行しそうだというものがあれば、方向だけ教えていただきたいというのが二点目でございます。

大村虔一会長

いかがでしょうか。

梅内総合計画課長

速報値ですけれども、宮城県から1月中旬くらいに数値が出ます。仙台市と市町村におきましては、基本的に数字の再統計や再集計はしておりませんで、委託統計という事でもあるのですが、基本的なデータを取りまとめて県にお出しして、県単位でいったん取りまとめて、国レベルで最後の速報を出すという構造になっております。各個別の状況等については分かるのですけれども、総トータルという事では、市の方で把握している内容がございません。1月上旬には宮城県から速報という形で市へ情報提供いただけるということですので、その情報を基に1月中旬くらいに推計作業をやり直すという予定でございます。

申しわけございませんが、今段階ではお話できる内容を持ち合わせていないという状況でございます。

増田聡委員

分かりました。

私もきちんと把握していないのですけれども、今回インターネット回収も含めて回収率が下がっていて、やや数字が疑わしいというところがあるというコメントをどこかで聞いたような気がするので、是非そこら辺も確認していただいて、なるべく修正できる部分があればしていただきたいと思います。

大村虔一会長

先生の言われた前半の話は、この忙しい期間でなかなか大変そうだと思いますが。そのようなボランティアをするという方はおりませんか。論文の同じキーワードについてリンクを張るという作業ができる方はおりませんか。勝手な思いであります。

増田聡委員

来年度、そのような勉強会と研究会というものを立ち上げるのもよろしいのではないのでしょうか。

大村虔一会長

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

庭野賀津子委員

今回読ませていただきましたが、全体的にまとまりができて分かりやすくなっていて、言葉一つも吟味して選んでいらっしゃるという事は分かりました。ありがとうございます。

7ページのミュージアム都市がキーワードになるのですけれども、ミュージアム都市

の説明についても非常に分かりやすく、一般市民の人が見ても理解できる内容となっていると思います。事前送付の資料にはアミューズメントという言葉が出てきていたのですが、それを伺わせていただきたいと思っていたのですが、今日の資料では削除されているので、ここでは学びの場としてのミュージアムなのでアミューズメントを削除して良かったと思います。

後は全体的に良いと思いますので、細かい文言の問題で申し訳ないのですが、いくつか気づいたところで、申し上げさせていただきます。

まず、2ページですが、仙台の都市像の一つ目の丸で「未来を育み創造する学びの都」の最後の黒丸のところで、「芸術・スポーツなどの創造的な文化風土」ということで、まずここで「芸術・スポーツ」と挙がっていますが、15ページの(2)のところでは、それが逆転して「スポーツ・文化芸術」になっている。また、そのの部分でも「スポーツや芸術文化」となっています。先程の芸術文化の順番が変わったというところと、更には文化芸術という言葉が芸術文化と同じセクションの中で入れ替わっているため、ここは意図的に変えているのか、たまたまなのかという事を確認したかったのですが、どちらかといえば、例えば、文化芸術振興基本法というものもありますとおり、文化芸術という言葉が自然なのかなと思いました。後、最初の方で「芸術・スポーツ」と挙げられているので、できればそろえた方が良いのではないかと思います。例えば(2)の だと、地下鉄東西線や南北線のところでまずサッカー・野球などスポーツを挙げて、この流れでスポーツや芸術文化になっていると思うのですが、例えば地下鉄の南北線沿いには音楽ホールなど舞台芸術がありますので、ここに一言前に「舞台芸術」という言葉を入れていただければ、芸術文化を先にもってきて「芸術文化・スポーツ」と順番を直せるのではないかと思います。

それから、15ページの上の方ですが、人をひきつけ躍動するということの下から3行目のところに「学術・歴史・文化・スポーツ」とありますが、できればここにこれまでの流れで芸術を入れた方が良いのではないかと思います。例えば、「文化・芸術・歴史・スポーツなど」。文化の中に芸術が入るのですけれども、文化というのは非常に広い意味ですので、スポーツと挙げているのであれば、それと対照させて芸術と入れていただければ良いのかなと思いました。

それから26ページですが、ここに都市づくりのチャートを挙げていただいているのですが、大項目で三つあってそれぞれ小項目があるのですけれども、一つ目、二つ目の項目の項目名はその内容を示していると思うのですが、三つ目の「個性を育む豊かな都市文化づくり」のタイトル項目では、これだけ見ると何を言っているのか分からないという事です。でも、中身を見ますとスポーツ振興と芸術振興だけを取り上げていますので、そうしますと、この「個性を育む豊かな都市文化」が小項目に対して余りにも大きすぎるのではないのでしょうか。ですので、内容が分かるようタイトルにいただければと思います。例えば、具体的にここにスポーツと文化芸術が上がっているのですから、スポーツ・文化振興の基盤づくりだとか、なるべく「づくり」でそろえなければならぬと思いますが、内容が分かるタイトルにした方が良くと思います。

そして、このスポーツと文化の順番ですけれども、もし最初の2ページに挙げていた

だいたとおりにそろえるのであれば、芸術の事をまず持ってきてスポーツでも良いのかと思います。別にどちらが上という事はないのでスポーツを上を持ってきてもどちらでも良いと思いますけれども、整合性を取るのであれば、文化芸術を先に持ってきた方が良いと思います。やはり、仙台はスポーツももちろん盛んではございますが、芸術面でも国際音楽コンクールとか、仙台クラシックフェスティバルとか、仙台市外の方々にも活動が知られているような芸術活動が行われていますので、芸術を先に持って来てもよろしいのではないかと思います。

それから30ページですが、基本的施策の「生きる力を育む学校教育の充実」のところの下から四つ目の「指導補助員」ですが、この中で使うものを仙台の中だけで通用するローカルな言葉でまとめていっても良いのか、それとも、仙台市外の方々も通用する一般的に使われる用語にした方が良いのか。そのスタンスの違いにもよりますが、指導補助員としては、文化庁としては特別支援教育支援員が正式名称です。仙台市では指導補助員となりますけれども。例えば港区ですと学習支援員だったり、あるいは他の市町村ですと介助員とか、それぞれの自治体によって使い分けているところもございますけれども、正式には特別支援教育支援員となりますので、一般的に使うのであれば支援員という言葉を使った方がよろしいのかなと思います。あるいは併記しても良いと思います。指導補助員として括弧して特別支援教育支援員などというように、仙台市外の方が読んでも分かるような書き方をした方がよろしいのではないかと思います。一般性をもった文章にした方が良いのではないかと考えております。

その事とも関連して90ページですが、太白区の概況のところ、b jリーグの仙台89ERSとか、98ページのベガルタ仙台ですが、固有名称が出てくる事は仙台が誇るチームですのでよろしいかとは思いますが、何のチームなのかを一言書いた方がよろしいのではないのでしょうか。例えば、ベガルタ仙台であれば、プロのサッカーチームのベガルタ仙台ですとか、もしかしたらいきなりベガルタ仙台と書かれても何の事が分からない方もいるかもしれないと思いました。一言加えていただくだけで親切な文章になると思います。

以上でございます。

大村虔一会長

ありがとうございました。

市の方から何かありますか。

梅内総合計画課長

要望につきましては、なるべく全体的な統一を図りたいというのが一つありますし、後、各部門、各区との整合という事もありますので、いただいたご意見を検討して最終的な表記に生かしていただきたいと思います。

大村虔一会長

よろしくお願いいたします。

他にいかがでしょうか。

江成敬次郎委員

私も細かいところなのですが「資源循環」という言葉が使われており、これはこれで良いとは思いますが、これまでは「資源循環型都市」という言い方がポピュラーだったと思います。「型」という言葉を削ったのだと思うのですが、私の印象では「資源循環都市」というと資源循環をまちの中心産業みたいな位置付けをしている、例えば北九州市であったり、そういう印象があるものですから、その辺の表記はどのようなかなとお考えをお聞かせいただければと思います。

大村虔一会長

いかがでしょうか。

梅内総合計画課長

この表現につきましては、現在同時期に検討を進めております環境プランの表記の方で、ご指摘のとおりこれまで資源循環型都市だったものを低炭素都市あるいは資源循環都市という言い方に切り替えてきております。づくりの推進という事でございますので、これから仙台でもいっそう、そういった面を進めていきたいという環境プランの考え方がございまして、それを踏まえて基本計画でも同様の表記に今回修正を図ったものでございます。

大村虔一会長

よろしいでしょうか。

他にいかがでございますか。

岡本あき子

随分整理していただいてありがとうございます。また、若者とか子供とかの主体的な活動として、積極的に取り組んでいただいたことに感謝します。

30ページの下の方に「健やかな体の育成に向けて、規則正しい生活習慣の確立に向けた総合的な取り組みを進めます」とあるのですが、仙台市で「早寝・早起き・朝ごはん・あいさつ」というスローガンで、ここ数年取り組んでいた時期があったのですが、行政が出す運動としてはパタッと聞かなくなったと思います。文科省で推進していてベガッ太君がキャラクターをやっているときは、頻繁に「早寝・早起き・朝ごはん」をやっていて、仙台市の場合は「あいさつ」も加えてという事を強調してやっていた時期があったのですが、その運動としてのものが少しフェードアウトしているのかなと思いました。この計画でふれるかふれないかは別としても、「早寝・早起き・朝ごはん・あいさつ」運動はフレーズとしてもやるべき事という意味で非常に分かりやすかったので、あえて項目としてなくても伝わりやすいのではないかなと思いました。規則正しい生活習慣を身につけましょうというよりもかえって分かりやすいのではないかと思った



ので、検討していただけるとありがたいと思います。

後、44ページの下から5行目に「児童クラブ等において、職員のスキルアップ」という項目があるのですが、これは児童クラブなどの子供の施設でやるべき事という事を言いたいのか、障害児に対する支援という事を言いたいのかちょっとフレーズでは分かりにくくて、例えば、巡回指導は児童クラブがやる話ではないのではないかと思います。読んでいくと、障害児の支援のために児童クラブでは職員のスキルアップをして、他のところで巡回指導をするのかと思いましたので、この表現を障害児に対するケアという事であれば、出だしに「障害児に対する支援として」ということが必要なのかなと思いました。児童クラブの取組としてここまでやるつもりなのか、もしそうであれば良いのですが、もし違うのであれば誤解を招くのではないかと思います。

後、45ページの真ん中くらいに「企業に対する育児支援制度」で、男性の育児参加を入れていただいているのですが、子育てと就労の両立支援という言葉が良いのか、ワークライフバランスという言葉が良いのか。男性の育児参加をさせる事がメインというよりは、男性も女性も共に働き方を見直しましょうということを企業に訴えかける事が行政としても必要な事なのかなと思ったので、個人的にはワークライフバランスという言葉が当てはまるのですが、男性の育児参加があるよりも、働き方を見直すように行政としても努力をしていく。その中で男性の育児参加とか、男女共に両立支援という事を取り組みますというフレーズにさせていただいた方がありがたいなと思います。

後、比較表の20ページで「多様な学びの拠点の充実」という事ですが、私だけかもしれませんが、このところだけ具体的に施設ごとに取組の紹介があるのですが、市民センターについて、泉岳少年自然の家、動物園、それから博物館、科学館、メディアテーク、青年文化センター、図書館という形で個別の施設名が出てくるのですけれども、全体の構成を見たときにここまで具体的な表記が必要なのか、目的別にもう少し整理しても良いのかと思いました。例えば、一番下に生涯学習施設について、会館日や会館時間があるのですが、博物館、科学館も生涯学習施設なので、生涯学習施設という事で一つにくくっても良いのではないかもしれないですし、もう少し整理してシンプルにしても良い気がする私は思ったのですけれども。そこについては、他とのバランスを考えて検討していただければと思います。

以上です。

大村虔一会長

ありがとうございます。

何か事務局の方からございますか。

梅内総合計画課長

最後の個別の施設のお話につきましては、現在、図書館整備計画等で個別計画の振興を踏まえまして、今回記載の充実を図ったところでございます。

表記について複数ご指摘がありましたが、片仮名の使い方はこのような計画の場合難しいところがございます、私も悩むところでございますが、こういった表記が適

当なのかという事も部局の方とも相談しながら、これまで話を詰めてきた経過がございます。

ご指摘を踏まえまして最終案に向けてどうするか検討してまいります。

岡本あき子

もう一点最後に。

さっきインターネットで関連づけとあったのですが、こちらは言葉でも最後に説明は付くのですよね。今のワークライフバランスもそうですがいくつか専門用語が出てくるので、最後にきちんと付けていただきたいです。

梅内総合計画課長

用語集につきましては、最終的には中間案にもお付けしたのですが、やはり市民の皆様にお出しするときには付けたいと考えております。今回議案になるという事もありまして、議案の上では他都市で基本計画を議決している書類をみても用語集まで出ていないという事が多いので、その中で片仮名をどの程度使っていくかという事も大きな課題でございまして、その辺は最終案に向けましてどういった表記にするか確認していきたいと思います。ただ、市民の皆様にお出しするものにつきましては、用語集でありますとか、そういったものを付記して分かりやすいように努めていく考えでございします。

大村虔一会長

他にありますでしょうか。

大滝精一委員

65ページのところなのですが、「付加価値の高い産業の振興」というところで何箇所かクリエイティブ産業という言葉が出てきますが、例えば の一番頭のところだと、「印刷、デザイン、IT、コンテンツ産業など、文化や芸術を活用したクリエイティブ産業」という言い方をしているのですが、一般の仙台市民に説明するときにクリエイティブ産業を説明する事は結構大切なのではないのでしょうか。ここで説明している言い方はやや狭い言い方であって、実はクリエイティブ産業は前に出てきているミュージアム都市の中でもすごく関連を持っているものです。ですから、クリエイティブ産業をこの総合計画の中でどう考えているのだとか説明すべきだと思う。非常に限定的に使っているケースとかなり広い範囲で使っているケースがあり、特にこの文章では製造業や観光業など他産業との連携を支援するという言い方をしていますが、私はそのように広い意味合いをクリエイティブ産業に持たせた方が良いのではないかと考えています。ただし、常にそのような使い方をしていると、今まであった産業の部分は何なのかという話が一方で出てきてしまうので、そこところはなかなか説明が難しいのですが、この総合計画の特に産業振興の面を見るとクリエイティブ産業であるとかミュージアム都市とかというキーワードがあり、しかも、この中では仙台はかなり魅力的なクリ

エイティブ都市をつくっていく上で素材に恵まれているんだという事を最初からうたっていますので、そのこのところの説明については、ここの印刷、デザイン、IT、コンテンツ産業をクリエイティブ産業とするとやや限定的過ぎるのではないかと思います。もう少ししっかりした説明や解説が必要なのではないでしょうか。後で、市民に分かりやすく説明すると思いますけれども、そのときにやはり創造都市とかクリエイティブ産業についてしっかり説明してほしいと思いますし、その事をうまく市民に伝えていくという事は今回の総合計画では非常に大事ではないかと思いますので、ご検討いただければと思います。

大村虔一会長

ありがとうございます。

先程大草さん手が上がっていましたか。どうぞ。

大草芳江委員

2ページの「3 仙台の都市像」の「未来を育み創造する学びの都」の四つ目の黒ポチについてなのですが、仙台は歴史的にも世界に認められた有名な科学や技術が生まれた土地です。これには学都の中で芸術・スポーツなどとあるのですが、科学という要素は、私は個人的に重要なのではないかと思ったのですが、いかがでしょうか。

大村虔一会長

事務局から何かありますか。

大草芳江委員

2ページの「3 仙台の都市像」の「未来を育み創造する学びの都」の黒ポチの四つ目のところです。ここに「芸術・スポーツなどの創造的な文化風土」と書いてあるのですけれども、仙台は地域的にも世界に認められた科学や技術が生まれた土地という地域性があるので、そこに科学という要素も重要なと個人的にはすごく思うのですけれども。

白川総合政策部参事

すみません。

なかなか全ての要素を盛り込む事は難しく、科学についてはむしろ、2番目のところにこれまでも含めて知的資源の集積というものが学都の中で非常に大きな位置を占めていたものですから、その中に思いとしては詰めたつもりだったのですけれども、なかなか先程の文化芸術もそうなのですが、限られた分量の中で何もかも言葉を列挙する事が難しい中で知的資源と分けてしまったというところがありました。全体の見直しの中でももう少し整合性がとれるように何か付け加えられるものがあれば、検討していきたいと思いますが、現状の気持ちとしてはこの中に入れていたつもりでした。

大村虔一会長

よろしいですか。  
どうぞ。

針生英一委員

先程の大滝先生の話の続きになるんですけれども。例えば16ページのところのクリエイティブ産業。私自身もそういう産業に関わってきて思う事は、まずそのクリエイティブ自体を産業化するという考え方があります。まあそれは先程、大滝先生のお話にあった文化的要素を都市の魅力として、都市の魅力を高めていくという部分と、後もう一つはそのコンテンツ産業、いわゆる映画だとかゲームだとか、そういったものを育てていくというのが、一つクリエイティブ産業の位置付けとしてあると思うんですけれども。もう一つは、従来型のビジネスにクリエイティブな要素を入れていく事によって、その従来型のビジネスが発展していくという流れになって。まあその前のクリエイティブというのは、例えばマーケティングだとか、当然デザインも含まれるわけですが、そういう今まである意味で縦割りで進んできたノウハウを統合化して従来型のビジネスに入れていく事によって、従来型のビジネスが活性化してくる。まあそういう流れが一つあると思うんです。ですから、ここの16ページのところでも、そのクリエイティブ産業の活性化という事と既存産業のクリエイティブ化という部分と、両方の記述があった方が良いかなという。まあそれはどちらかというところの15ページの方でしょうか、地域産業の飛躍と競争力の方に入ってくるのかなと思います。

それから15ページの地域産業の今のところなんですけれども。ここのところでは農業の活性化についてふれているんですけれども。まあ六次産業化だとか、あるいは農商工連携の推進という言葉は入っているんですけれども、どちらかというところの書きぶりが、農業という一次産品の部分に偏っているかなという感じもするので。まあ食品の加工製造とか、それからレストランとかショップだとか、そういうその食に関わる産業、いわゆるアグリビジネス全般を活性化というような書き方と、それから、それは都市の魅力につながるというような流れが良いかなと感じました。

大村虔一会長

ありがとうございました。  
どうぞ。

内田幸雄委員

105ページ、106ページの評価のところなんですけれども。まだもうひとひねり書き加えるのかなと思いながら、この運用との絡みも含めてなんですけれども。例えば、106ページの「基本計画 第5章 2(2) 関連」というゴシック体の3番に、「総合計画推進状況の集約整理〈毎年5～7月〉」「各年度、各局・区と調整しながら」という、この調整という言葉の中に包含されているんだと思うんですけれども、例えば量的な話で言いますと、私も教育振興をやらせていただきながら図書館の方にも関わっていて、お

願いをする立場でありながら、僕のところに教育局から一つ二つと、後、消費者なんとかかんとかっていうのと、いわゆるコメントをというのが三通ぐらいきているんですね。何がどう書いて良いんだかっていう事とのゴチャゴチャ感が、まず定量的な事を言うときとすごくあります。だから、今度は定性的な中身の問題にいったときに、各局でのこの下にぶら下がっているところでの評価と、この総合計画というところでの評価っていうのが、裏腹な関係になるような事があつたらどうするんだとか、ちょっと言葉としてどう表現して良いか分からないんですけども。調整という枠組みの中が、他の局のこの下にぶら下がっているそれぞれの計画ごとの5～7月に同じ事をやって、総合計画でもまた同じような事をやって、なんかそういう流れでいくときって、本当にこの時期に様々な評価が重なってきてしまって、果たしてきちんとした評価がどれだけできるんだろうかという疑問も若干無きにしも非ずなんですね。

それから4番にあるような、「市民協働による」という、先日行った市民フォーラムとかそういうワークショップみたいなものを、例えば毎年繰り返していくような事自体は反対ではないんですけども、例えば総合計画は3年に1回で見るとか、何か各局のものとの調整の具体性みたいなものをもうちょっと書きこむ必要があるかもしれないですけど、この審議会の中で分かっていたいという気がしています。

いかがでしょうか。

大村虔一会長

いかがでしょうか。

山内企画調整局長

今の計画は市政全般の計画という事で、その総合計画、特に基本計画で10年間の市政全般の施策を拾って、実施計画で3年間のより具体の事業を拾っています。やはり総合計画につきましては、市民意見又は市議会からもその財政的な制約が高まる中で、絵に描いた餅にならないようにしっかりと進行管理をやるべきという事で、そのしっかりとと言っても、その事務量的にももの凄い膨大な中でどうしようもないという事では適切な進行管理はできませんので、そういった事を庁内的に調整した上で、こういった形であれば対外的にもうまく理解をいただきながら庁内的にも作業を進められるという判断の中で組んだ運用の案でございまして、その際、その個別計画との関係はどうなんだという事があるかと思えますけれども、その実際個別計画では指標を管理しているようなプランニングだと、まあそういった指標の総括という事も出てくるんですけども、その辺はできるだけ効率的にやれるように、各局とは十分に調整して対応したいと思っております。

大村虔一会長

どうぞ。

小松洋吉委員

一つ細かな事です、18ページの最後に「実効性の高い市民協働を推進していくための制度を整えます」と書かれています。まあ制度という言葉を使っておりますけれども、これで良いんだろーと思えますけど、何かこうイメージされているものがあるのかどうかという事が一つです。別にその事を具体的に書いてくださいという意味ではありません。

それから事務局以外で、例えば増田先生と大滝先生にちょっと教えていただければと思うんですが、協働という、前から私はずっとと思っているんですが、どうも「パートナーシップ」という意味合いで使っているのかなという気がいたしますが、その他に私は「コラボレーション」という意味合いを協働の中で強く意識しております。そこら辺の文言の使い方がどういう気持ちかなと言う事だけ、ちょっと良ければ聞いておきたいなと思っております。

以上です。ちょっと迷惑な質問だったかもしれませんが。

大村虔一会長

いかがでしょうか。どちらにいきますか。

白川総合政策部参事

ではすみません、一点目の制度の方について説明させていただきます。今、仙台市の中で仙台市市民公益活動促進委員会というところがございまして、先日そちらで中間とりまとめをまとめていただいたところなんですけれども、その中でまだどんなものにするかという事をはっきり明記しないで、条例であったり、ビジョンであったり、指針であったり、とにかく実効性を担保するための、そういった制度を何かきっちりと打ち出すべきだというまとめをいただいております。まだそちらとの最終的な擦り合わせも終わっておりませんので、何らかのきちんとした制度が必要だという認識では我々もそう思っているんですけれども、今時点ではそういったものを踏まえて、制度という言葉で入れさせていただいた部分でございます。

大村虔一会長

ありがとうございます。

どうぞ。もう一つの質問に答えるのはどうしますか。増田先生か大滝先生というご指名でございますが。

増田聡委員

大村先生でも。

大村虔一会長

私の体験で言うと、1975年に世田谷で冒険遊び場を地域の人たちとやって、空き地を借りて子供が何でも好きな事をやれる場所づくりを始めました。それが79年に羽根木公園で、羽根木プレーパークになったわけです。そのときは、始めは全く住民のポケット

マネーでやっていたんですけど、行政もお金を出す形になって、それでボランティアと行政とで一緒になって仕事をする仕組みができた。それができたときの世田谷区の児童課長さんが、「こういうのはコラボレーションって言って協働と書くんだよね」と言われたんです。それで僕は初めてコラボレーションという言葉聞いて、ああそういうものかと思った。その後あんまり深く探求はしておりません。

小松洋吉委員

ちょっと良いですか。

大村虔一会長

はい。

小松洋吉委員

ですから委員長のお話を伺っていても、やっぱり市民住民が問題に気づいて、そしてそれを主体的に解決していくための一つの方法としての協働という事で、市民住民が一番主体的にというところに私は協働の意味合いがあるんだろうと思います。地域福祉の考え方がそうです。ですからコラボレーションはコーポレートイズム、C O Pの考え方、つまりロバート・オウエンからきているんだろうと私は理解しています。しかし、行政の協働というのは、どこの計画を見ましても大体パートナーシップ的に書かれていると思います。

以上です。

大村虔一会長

恐れ入ります。恥ずかしい話をしました。

どうぞお手が上がっていましたね。大滝先生。

大滝精一委員

これは僕の理論ではないんですけど、前に文学部の長谷川公一教授からいろいろな話を聞いた事があって、そのパートナーシップというのはお互いの役割分担をしているというイメージ。だから、P P Pなんていうのは、今までは官民協働と訳すんですけども、でも官と民はそれぞれ持ち味があって、それぞれの役割を分担しながら共通目標を達成していくみたいな話ではないかと思うんですね、ニュアンスとしては。で、コラボレーションというのは、お互いが異質なものをぶつけ合ってとか、異質なものがある事を認め合った上で共通の目標を設定しながら、新しいものをつくりだしていくという。まあ今小松先生がおっしゃったのは、ある種の凄く能動的な意味合いのようなものが深く言葉の中に入っているものかなと思うんです。ただ、これはそれぞれの学問の分野とか何かで使い分けられているので、パートナーシップが悪くてコラボレーションが良いとかという、そんな話は全然ないんですけどね。

でも、我々のその経営学の世界なんかでも、やっぱり最近コラボレーションという言

葉を非常によく使います。例えば、環境問題を解決するときに、企業とNPOとNGOと地域の人たちがそれぞれ力を出し合って環境を良くしていくなんていうのは、最近ではコラボレーションという言葉を使う事が多いですね。ただ、そういう少し能動的、積極的な意味合いをその言葉の中に込めているのかもしれませんが。これは私の考えです。

大村虔一会長

ありがとうございます。

どうぞ。

樋口稔夫委員

それでは64ページから66ページまでなんですけど、その中に地域経済の活力づくりという事で、地域商店街について記載がございます。地域商店街の魅力を向上させるとかいろいろ書いてありますけれども、最近の地域商店街というのは、ビックストアとの競争で皆敗れたシャッター通りがほとんどという事で、これは根本的には簡単に直らないという事だと思うんです。それで、今お年寄りが歩いていけるくらい近いところには商店街がないという事で、だいぶ苦しんでいる人が多いですよ。だから、これを買物難民とか言っており、そういう状況になっております。それで、地域の暮らしを支える、そういうものは仙台市の行政の中で相当大きな問題だと思うんです。やはり相当きちんとした表現にしながら実際やっていかないと。既にそういう状況に入っていますから。車を持っていない高齢者がほとんどで、困っているというのは間違いない状況だと思います。それで、もう少し具体的に言いますと、やっぱり弱者に配慮した購買組織をつくるとかいろいろなやり方はあると思うんですけど、何かやっていかないともう地域の誰かに任せれば済むというような問題ではなくなっていると思うんです。これはもう少し表現をきちんと入れて、何かやっていく必要があるのではないかなという事で、もう少しパンチの効いた、行政としての意気を入れてもらいたいという感じがあります。

大村虔一会長

どうぞ。

梅内総合計画課長

ただ今のご指摘は区別の意見交換会等でも、買物が最近不自由でというご意見は多くいただいているところでございます。私どもといたしましては、地域の商店街についてもできるだけ活力を発揮していただけるように支援してまいりたいという事で、64ページ以下記載しているところはございます。ただ、ご指摘をいただいた点についても、しっかり対応していかなければいけないとご指摘は、全くそのとおりだと思ってございます。特に意見交換会などでも多いところでございますので、例えば先程申し上げました58ページのところで、郊外区域でより多くそういった課題が発生しておりますので、そういった点でのコミュニティの機能維持に取り組んでいくという事も打ち出しておりますし、一つは市民力という事で、例えば18ページのコミュニティビジネスでありますと



か、20ページのところで地域づくり、地域政策というような事を記載してございます。  
このようなところでこれがという絶対的な特効薬があるという分野ではございませんので、こういった事を組み合わせながらご指摘のような点にしっかり応えていくという事を、こういった様々な点でお示ししているところでございます。ご意見のありました点について、重要な課題だという認識は私どもも同じでございます。

大村虔一会長

よろしゅうございますか。

樋口稔夫委員

はい。

大村虔一会長

どうぞ。

高野秀策委員

先程の方の発言と重複するところがあるんですが。今回のこの記述の中で自然と調和した都市づくりという事で、農業の多面的機能とか農林業の活性化についてもそっちこちに記載されておりまして良かったなあと私自身思っているんですが、その中で六次産業化あるいは農商工連携がこれから農業の振興には大事なかと。今までは米や麦や野菜をただ単につくってきた。それは食料には間違いはないんですが、ある面では原料なんですね。ですから、これを商工業の力を借りて、先程の方がアグリビジネスとおっしゃってございましたけど、そういう事を仙台はやるべきではないかと。特に野菜の入った加工品とかゼリーとかいろいろあるかと思うんですけども、そういうのを仙台ブランドにして、ブランドづくりというような表現にしていく。今までの仙台ブランドというのは仙台曲がりねぎとか仙台長なすとか仙台白菜とか、野菜の単品を言っていたんですね。そういうのではなくて、物語風にしてそれを加工してこういうのができたという、そういう仙台ブランドというような表現を入れていただければありがたいなと思っていました。

以上です。

大村虔一会長

ありがとうございます。

他にいかがですか。

どうぞ。

石川建治委員

要望なんですが、できればそれぞれの項目に関連する図表を付けられないものかという事なんです。いよいよこの基本構想、基本計画が形になってきて、冊子としてまとめ

られつつあるときにこう感じているのは、そのできあがったものが103万市民に本当に受け止めてもらえるのかどうか。読んでいただいて、理解していただいて、そして一緒にまちづくりしようよというところに、その市民の人たちがいけるのかどうかというところが非常に気になりだして。そういう事からすると、一つは少なくとも今現状を目で見て理解できるようなところから、こういうまちづくりをしていくんだよというところを理解してもらえるのではないか。見やすくすればという事があるという事と、例えば人口推計は今度の国勢調査を踏まえてつくり直すと言いましたね。それから交通軸なんかを中心とした図表は入っているんですね。ただ、例えば人口減少の中で高齢者が増え、子供が少なくなり働く人たち、働き手もいなくなりという非常に暗い中で、ではその学都仙台が実は若い人たちがその年齢構成の中で結構な数字を確保しているのですね。そういった面では、そういったその若い人たちをどう生かすのかというふうに、こう生かしていく事がこれからのまちづくりの未来を握っているよという事であれば、例えばそのそういう人口の構成比とかもできるだけ市民の人たちに分かりやすく示してほしいし、交流人口を拡大していくと言ったときに、では今仙台市はどれぐらいの交流人口が毎年来ているのかといったところとか、できるだけそういう分かりやすい図表が添付できるのであれば、市民の皆さんのより理解の手助けになるのかなという気がしているんです。ただ、冊子のその分量の問題もあると思いますけれども、それはできるだけ市民の人たちが受け止めてもらえるような工夫を是非できないものかなと検討いただければと思っていました。

大村虔一会長

ありがとうございました。

この点はいかがですか。

山内企画調整局長

石川委員のご意見の主旨に全く同感でございます。同感ですけれども、作業としていつの段階でどういうふうにやっていくかという部分の時間軸の問題もございまして。当然今回は市民と共にこういう希望のあるまちづくりを進めていこう、推進協働して知恵を生かして学びを重視して皆で明るいまちにつくっていききたいという事ですから、分かりやすいものを、市民向けの概要版のパンフレットあるいは本編自体もそういった図表系も含めてどういうものをつくるか、その辺は同時並行でいろいろ考えていきたいと思っております。まずは当面は、一応議会に向けた議案という事で、その中ではこういった文章中心にならざるを得ないんですけれども、主旨を踏まえて今後の作業の中ではこのような書き方をさせていただきたいと思っております。

大村虔一会長

よろしいですか。

石川建治委員

分かりました。まあそういう形で。

ただ、市民に示すときには是非、全ての項目について載せろという事ではなくて、仙台市の個性とか魅力というものが今現在の中ではこういったものがあるよという事を示す事も、また、その市民の人たちがこのまちづくりに関わる事の手助けをする事になると思いますので、是非その辺はよろしくお願いしたいと思います。

大村虔一会長

ありがとうございます。

増田聡委員

今の件とも関係しているんですけども、この一つ前の21プランと今回のものはものすごく黒い計画で、地図は都市計画のところは3枚ぐらいと各区の分しかないという計画書の構成になっておりますが、記憶があっていれば仙台市総合計画2000はもうちょっといろんなデータが載っていたのではなかったかなというふうに個人的には記憶しております。計画書の中に図表とか地図とかチャートとかどれぐらい盛り込むのかというのは、恐らくその計画書が持っている性格にも反映していて、今のお話で言うと議決のための文章であるという位置付けで21プランからそういうような形に展開していると思うので、そこら辺をどういうふうにするかという事も含めて、後々また各章のこれを読む市民の会とか、是非そういうところを立ち上げる方が賢明ではないかと個人的には思っています。

大村虔一会長

ありがとうございます。

どうぞ。

菊池昭一委員

区ごとの中で、私若林区なものですから若林区を中心にずっと見ていたんですが、実はちょっと泉区を見させていただきましたら、101ページに「マンション単位の町内会の形成促進などにより、地域コミュニティ活動を支援します。」という項目があるんですね。恐らくこのイメージは賃貸というよりもむしろ分譲マンションという考え方があると思うんですが、それ以外の記述の中でも見つけれなければ大変申し訳ないんですけども、仙台市で約十数万人の分譲マンションの人口がいて、恐らく泉区だけではなくて都心部、あるいは若林区なんかもまだ増えている状況もある中で、そのマンション自体のコミュニティについてふれているのは泉区だけというのはちょっと寂しいなという気がしたんですけど、それを含めてどこかにふれているような箇所があれば教えていただきたいし、もしできれば何らかの形で入れてもらえればと思います。

大村虔一会長

事務局いかがでしょうか。

梅内総合計画課長

全市の方になりますけれども、19ページでございます。地域づくりのところ、今ご指摘の点につきましては市全体として非常に大きなテーマでございますので、（１）の２つ目の丸に「マンション等の集合住宅における町内会の形成や担い手の育成を支援」といったような事で、このあたりで対応してまいりたいと考えております。市民局でもマンションにおける町内会活動に関する冊子などもつくりまして、泉区に限らず各区の町内会長さんへの説明会また研修会の折などにそういうものをお配りしながら、こういった取組について進めていくような説明もしているところでございまして、当然泉区に限らず、とりわけ今後機能集約を進めてまいりますと、都心地区あるいは機能集約の地区におけますマンションというものが増えてまいりますので、そういった折にこういった状況がますます重要になってくると思いますので、全市的にまた区の方とも連携しながら進めてまいりたいと考えております。

菊池昭一委員

よろしくお願いします。

大村虔一会長

それでは、はいどうぞ。

水野紀子委員

具体的にこれをどうしていただきたいという事ではないんですが、５ページのところに「支え合いの重視」という事で、「誰もが社会とのつながりを持ち、互いに支え合うことがますます重要になります」と入れていただいたんですが、これのイメージが今一つよく分からないところがありまして。最初の会議で私は「ネットの事が入っていないですね」と申し上げたんですが、人間関係をどのように構築していくのかというところについてのイメージが今一つよく分からないんですね。割合美しい言葉は書いてあって、マイナスの言葉が書いてないっていう文章かなと思います。私が申し上げた児童虐待とか女性に対する暴力とか消費者被害とかは入っているんですが、例えば今NHKで非常に有名になった無縁社会というものがありますが、ニートとかひきこもりとか自殺率がすごく高いとか孤独死とか、そういうマイナスの言葉が全然書いていなくて。マイナスの言葉を入れるという要求ではないんですが、マイナスの言葉で皆が今思っている事がどういうふうな形でイメージされて、助け合っていく事によって温かい仙台市になるのかなというのが、もう少しイメージできるような形になると良いなと思うんですが。では、具体的にというと、41ページを見てみますと、「共に生き自立できる社会づくり」という事で、自立という事で障害者が安心して自立できるように、弱者を支えて、弱者を支援するときにはその自立できるようにという形で行政としてはサポートせざるを得ないので、そういうイメージなんだと思うんですが。全体のコンセプトとしてはその市民力とか、つながりとか、コミュニティビジネスとか、あるいはコラボレーショ

ンとかいうものが、つまりニートというか孤立して無縁社会で孤独に生きていて、自分が孤独死におびえながら生きている人たちも自立はできているという、むしろ自立はいつまでできるんだろうかという恐怖感で生きているという、そういうバラバラな社会の中をむしろ自立できない人みんなで、自分一人が自立できないんだけど支え合う事によってお互いに豊かに生きていける。自分一人で生きていける人もむしろそういう人を支える事で生きていけるし、弱くなった人、自立できなくなったときも怖くない、支えてくれる人が周囲にいっぱいいるんだというふうに思えるような社会にしたいと思うんですが。そこにイメージが、共に生き、自立できるところでやっぱり、自立を目指しているのかなっていう感じがあればいいのかなと。ここで終わってしまうとパートナーシップとかつながりとか、その5ページに1行だけ加えていただいたものの、ニュアンスをもう少し入れるような形に修正がどこかで可能だとうれしいと思いますね。マイナスの言葉も無縁社会とか入れると、逆にそれを否定する形でイメージができるのかなという気がふとしたりして。きれいにマイナスの言葉が削ってあるんですけども、自殺者がないように孤独死を出さない、そういうのがもしかすると入った方がイメージが逆に鮮明になるのかなと。

大村虔一会長

難しいテーマだけど工夫してくださいよね。現代の個人の課題みたいな主題がそのベースにこうあって、それを市民たちが本当に支え合って生きていくようにどう変えられるかは、とても重要なテーマが入っていると思います。具体的にどう書けるかは相当悩ましそうだけど、ここまできたのもう一息がんばっていただきたい。よろしくお願いします。

白川総合政策部参事

5ページにも1行足させていただいた他に、例えば9ページ。ここが「いきいき健康社会づくり」だったのが、施策の1番が共生という事でやはりそういった事が非常に重要であるという、いろんな場面でご指摘をちょうだいいたしましたので、大きくタイトルを「いきいき健康」という明るめのタイトルから、やはりもっと共生が必要だということでタイトルも変えておりますし、この1行目で「孤立化を防ぐ地域のつながり」、やはりなかなか無縁社会という言葉を入れてそこを詳しく説明して、それに対する対応策をとるところまで一箇所できなかつたものですから、あちこちに入っているという形なんですけれども、そこで孤立化を防ぐ地域のつながりというふうに書いたところにはそういった意味合いを非常に多く含ませたところではございます。

後、先程先生からご指摘のあった41ページですけれども、ここも動向と課題の中に「地域とのつながりが希薄化し、孤立化する市民に対する支援が必要となっています」とあります。まだまだちょっと言葉的には十分ではないところがあるかもしれませんが、こういったところできるだけ無縁社会への対応が必要になっているというニュアンスを少しずつあちこちで出しているところです。

大村虔一会長  
どうぞ。

水野紀子委員

それと市民力というのが結びついていると良いですね。何かこう皆でわっと楽しい事を一緒にやりましょうというイベントをやりましょうという事ではなくて、市民力を使って共に支え合う社会というような形で。あの、あちこち足していただいているなというのは分かりましたので、今回がただそううまく出ているかなというのがちょっと不安だったので。ありがとうございます、市民に向けてのご説明のときに言葉を足していただければと思います。

梅内総合計画課長

ネットの対応という事で前に水野委員からご指摘もいただいております、ちょっとこの分野にしまったので読みにくいかなと思ったんですが。例えば65ページのところでネット対応についてご意見のあった部分と、行政の計画だという事もありまして、どういうふうに書こうかというのを非常に悩んだ部分があるんですが、例えばそのネット網等を活用した防災防犯の対策ですとか、水野委員とお話させていただくうちにいろいろな情報をいただいたので、このあたりで新たな何というか市民の皆様との窓口を広げようとか、市民力につなげていくためのネットの活用等についても、ちょっとここに入っているのが分かりにくいというところはあるんですが、対応してきた部分もございます。いろいろ難しい課題でどのようにしようかというのを、先程白川の方から申し上げたとおり悩んでいる部分ではありますが、最後に向けてどういう事ができるのか、考えてまいりたいと思います。

山内企画調整局長

ちょっと補足させていただきます。キーワード検索の話もございましたけれども、今回の総合計画の基本としては、市民力を重視しながらその学びと支え合いと、こういった事を強く打ち出して、基本構想にしても基本計画の重点にしても施策分野においても散りばめて、いろいろなセクションでそういった学びと支え合いを基本に具体的な施策をつくっていくという事で、その施策体系の中でどうしても分散させて書かざるを得ないところもございます。ただ、それ以外につきましては、やはり市民から見ても分かりやすくなっているかという部分では、今後更に市民に説明する資料づくりの中でまた工夫をさせていただきたいと考えております。

大村虔一会長

ありがとうございます。

もう随分時間が過ぎてしまいましたので、ご発言のない方からご発言をいただいて、終わりにしたいと思うんですが。間庭委員はいかがでございましょうか。

#### 間庭洋委員

審議会を開けば開くほど意見がたくさん出るんだろうなとは思いつつ、ここまでおまとめいただいてありがとうございます。

そして、欲深いものですから、106ページにさっきも説明ありました、これからの事について、非常に期待しております。これは10か年の計画でもありますから、毎年こういった事を繰り返して、こう月まで入れていただいているんですが、ローリングしてやっていくんだろうと思うんですが。まあ最初に設定した後、こういった展開でいくわけですが、市民の声の2番とか以外は、4番で多少ここで書いてあるような作業が必要とされるわけですし、それがまた以下の流れに従って次の年にはまた1番に戻るという事になっていくんだと思うんですが。この4番のところで議論ができる、いわゆる市民協働で議論ができるんだろうなと思うときに、このところにやっぱり評価・点検と同時に基本目標や関連資料の設定そのものについてもここで十分論議をできるようにして、次の流れに沿っていくというふうには是非やっていただければ。良かったとかどうかという評価と次はこういう目標を考えたいねっていう議論をここで十分できるような仕組みでやっていただければ、市民協働の一つの展開がまた総合計画を動かす中で大きく期待できるのではないかなということを見て思っておりました。

事務局に感謝申し上げながら意見とさせていただきます。

#### 大村虔一会長

どうもありがとうございました。

最後になったのが西大立目さんですが。

#### 西大立目祥子委員

水野先生のご意見にちょっと触発された事で言わせていただくと、やっぱり共に生き自立できる社会を目指すんじゃなくて、本当のところは自立できなくなっても、共に生きられる社会を目指すべきなのかなと、ちょっと考えました。

私が気になったのは、ちょっと申し上げながら遅いかもしれないんですが、56ページです。56ページの真ん中の の一番下に「老朽建物などの更新を促進し」とあるんですが、歴史的建造物の保存活動で負け続けの立場から言わせていただくと、老朽建物イコール全て歴史的建造物であるわけなんです。それで、活動の中でいろんな事をなぜ残すのかという事を考えると、その線引きというか価値がある価値がないというところの線をどう線を描くかが非常に難しくて。こういう一文が入ってしまうと、解体の理由にされてしまうというのをちょっと懸念します。国がもう古い建物を更新するようという方針を打ち出しつつあるので、これを入れなければならないのかと思いつつも、私としてはこれは取り下げたいんですが。無理だとしても、耐震調査を進めるとか、そのぐらいのところでおさめられないのかなと考えました。

それから57ページの「良好な市街地の形成と郊外区域等の再生」というのがあって、その土地の高度利用とか土地区画整理を進めて、まあ三つ目の丸でも整理事業を進めて高度利用を図るとあるんですが、分かるんですが、土地区画整理事業がはた

して全ての解決になるのかということ、駅東口の二十人町、鉄砲町のような大きな過ちがもしかしたらまた繰り返されるのではないかというのがとても心配で、区画整理事業はともすれば地域コミュニティを壊し、地域の歴史文化を壊し、自然環境を壊すものになってしまいがちだということをやっぱり配慮していただきたいと思うんですね。そうするとこんなに簡単に割り切った書きぶりはちょっと心配なので、もう少し暮らしやすさとか環境を配慮しとか、そういう事に対する担保するような文言を入れていただければなあと思います。

それと58ページに、先程からも出ているんですけども、なかなか生活力というか利便性が低下して地域商業もだめになっていく中でどうするかというので郊外区域というのが出されているんですが、これは必ずしも郊外に限らず都心とか都心周辺がそうなっているんで、むしろここは外しても良いのではないかなと思いました。止まっているところをどうするかというふうに、それは全市的な問題になるだろうと思います。

以上です。

大村虔一会長

事務局何かありますか。

梅内総合計画課長

老朽建物という記載でございます。こちらにつきましては、先程の歴史的な建物というところは非常に難しい課題なんですけれども、老朽建物というのはいわゆる廃屋と言われている、本当にもう崩れて近隣からかなり言われているようなところを意識しております。そのようなところについて行政は何ができるかというような事は難しい課題でもありますし、その中でも歴史的な価値があるものという事もあるかもしれないと思うんですけども、そういったような事を特に意見交換会等を中心にそういったところが不安なのでというご意見も出てくるというような事を意識しまして、こちらに書いております。先程ご指摘のありました歴史的な価値との整合性、あるいは市民の財産でもございますので、そことの兼ね合いなど難しい課題はありますけれども、今後10年を考えたときにそういう安全安心という視点でこういった対応が求められてくる場面が増えてくるのではないかと考えておりまして、それで記載したものでございます。この点につきまして、運用にあたりましては今ご指摘があったような点について留意が必要かなと思ってございます。

また、区画整理等につきましては市民合意、これから実際の区画整理事業、従前のようには財政の問題もございまして進まない面もございまして進める上では住民合意を始め様々な課題があるという事もご指摘のとおりと認識してございます。書き振りの問題もございまして、そういった点に留意しながら進める場合にも取り組んでまいりたいと思ってございます。

以上でございます。

大村虔一会長



西大立目委員が言った事もとても大切だと思います。景観重要建造物のようなこのまちに特色を与えている建物を保存しようとリストアップすると、大抵担保に入っていたりして、もう守れないのが現実なんです。その都市の都市らしさがどんどん失われていく事もあって、建築物をただの物と見ないで文化財的に見る視点や景観も大切だという事についても配慮をいただけるとありがたいと思います。

それから先程の水野委員の話は本当に重要な事です。僕は自治体の人口密度とこの5年とか10年の人口の増減の関係を示すグラフをよくつくるんです。そうすると人口密度が低い自治体は人口がどんどん減少している。県でいうと秋田とか青森がどんどん少なくなって、東京などは人口密度が高くて増加するグラフになる。その中で不思議なのは沖縄県です。沖縄は産業も強い方ではないし、人口密度が低いんだけど増加しているんです。多分子育てや地域の関係だとか、いわゆる行政の制度が整っているとは思えないけれど、昔風の社会関係があってそういう特異な現象を示しているのかなと思います。あんまり細かい実態を知りませんので数字の上だけですけれど、何か温かい地域が支え合う仕組みをうまく言葉にできないかなと思っています。いろいろ工夫をするときの参考になればと思って申し上げました。

予定していた6時を過ぎたのですが、他にどうしても今日、今日が一応最後の一つ前の審議会でございますから、なるべく言っていたきたいと思うんですが、どうぞ。

足立千佳子委員

すみません、回答はなくて良いんですけども、前からミュージアム構想とかミュージアム都市という言葉に違和感を感じているものと申し上げておりましたが、今回アンパンマンこどもミュージアムが基本計画に出ていて、これアンパンマンこどもミュージアムを使いながら学び育まれるのかと、そういう方針でアンパンマンこどもミュージアムを誘致したのかという事をがくぜんと知りまして、これはやはりちょっと今揉めているのは事実ですから、せめてアンパンマンこどもミュージアムについては言及していただきたくないなというのが私の立ち位置なので、とりあえず申し上げておきます。

大村虔一会長

他にございましょうか

間庭洋委員

すいません。ちょっと忘れていたのと、さっきの意見もあって。

65ページのところ、西大立目委員にちょっと関係するような意見あったんですが。クリエイティブ産業の非常に重要なものに建築建設業があるというふうに私も認識しているんですね。つまりは、これから新しい建物をどんどんつくるとい時代よりは今あるものをリノベーションして有効に使っていくという事は、極めてクリエイティブな要素が必要とされると。用途も含めてですね。という事で、仙台には相当な集積、就労の方々がおられます。また、大学を始め大変高い知的な集積もありますので、建築業と言いますか建設業がここに果たす付加価値の高い産業の位置を有して、極めてクリエイテ

ィブな要素を必要とされるという意味では、仙台にとっては大きな付加価値の高い産業の一群を持っているし、また、そうあってほしいという事で、特にリノベーションというものを意識したものを是非位置付ける事も検討していただければなど。その事がまちづくりに大きな良い影響を与えていくのではないかな。あるものを生かしていく、資源を大事にしていくという、あるいは環境を大事にしていくという方向にいく可能性が非常に秘められていると思いますので、付け加えさせていただきます。

## (2) その他

大村虔一会長

ありがとうございました。他にございませんでしょうか。

なければ今日はたくさんご意見ありがとうございました。そろそろ終わりにしたいと思うんですが、事務局は何かございますか。

梅内総合計画課長

まず一点目でございますが、資料3というのを配ってございます。これまで中間案に対しまして様々なご意見をいただいてまいりまして、それを本日の素案までできるだけ生かす方向で検討してきたところでございます。これにつきまして対応がまとまりましたので、総1,447件、資料3 - 1に示しました一応18に区分をいたしまして対応案を示し、資料3 - 2にありますものが市民意見の個別の表でございます。後ほどご覧いただければと思います。このような対応につきまして、明日からホームページの方にも掲載しまして、このような対応を図ってまいりますという事で、市民の皆様にもお知らせをしてまいりたいと思ってございます。この点以上でございます。

また、今日たくさんご意見いただきました。最終案の前でございますので、用語の問題始め各部局の方と最後の調整をいたしまして、次回1月20日に最後の審議会を予定してございますので、それまでの間どの程度反映できるか、反映できないものも出てくるかもしれませんが、対応してまいりたいと考えております。

本日は本当に暮れのお忙しいところ、多数ご出席いただきましてありがとうございました。

以上でございます。

## 3 閉会

大村虔一会長

どうもありがとうございます。

これで本日の審議は終了したいと思います。

事務局はいっぱい意見が出て大変でしょうけど、もう一がんばりお願いしたいと思います。

次回は年明けの最後の審議会になりますが、皆さんは本日はどうもご苦労様でした。ありがとうございました。